

弥生カレッジCMCの連結会計入門 (無料ニコ生 LIVE 講座・YOUTUBE)

(日商簿記2級 平成29年度新論点)

更新 17/10/27

足して引くだけ
簡単だね

1. 連結会計とは

親会社（P社）と子会社（S社）の財務諸表を合算する手続き

本店と支店の試算表を合算する手続きと考え方は同じ

∴内部取引は取消が必要（2級では学んでいないが内部利益も取り崩す必要あり）

2. なぜ連結会計が必要か？

<例1>

粉飾決算の防止

P社の決算直前の会議

社長：経理部長、今年の決算はどうや

部長：残念ながら、100万円の赤字です

社長：なに！株主総会でいじめられるがな・・・

部長：じゃあ、子会社に50万円の商品を200万円で売りましょう



50万の商品を
200万で子会社
に押し付けよう



いわゆる押し込み販売ですね。他には架空売り上げなども該当します。借入金の簿外化などもありますね。ちなみに借入金の簿外化は次のような仕訳で行われていたようです。

借入金／売上→これで利益をあげるとともに、自己資本比率も増やせます。でも、どう考えても変な仕訳ですよ。一番有名なのが山陽特殊鋼事件（華麗なる一族）ですね。これを機会に、連結財務諸表を補足情報として開示する事になったようです。

<例2>

子会社を新規で設立（資本金4,000,000円）するときの仕訳を考えましょう。

子会社株式4,000,000／資本金4,000,000ですね

設立前のBSと設立後のBSを比較してみましょう

<P社>

現金 10,000,000

借入金 7,000,000

資本金 3,000,000

※子会社設立後

P社

現金 6,000,000

借入金 7,000,000

子会社株式 4,000,000

資本金 3,000,000

S社

現金 4,000,000

資本金 4,000,000

設立後の連結B/S

現金 10,000,000

借入金 7,000,000

子会社株式 4,000,000

資本金 7,000,000

設立前の

自己資本比率→30%

設立後の自己資本比率→50%

投資家や債権者の意思決定情報に影響あり



この会社の自己資本比率は高い！
株買おう

3. じゃあ、どんな処理が必要？

グループ全体の正しい財産状態・経営成績を示すためには

①財務諸表の合算（単純に合計するだけ）

②内部取引を消去する必要があります（売上／仕入）→実際には仕入は売上原価で処理
商品がグループ会社の倉庫に移動しただけ

③内部取引を消去する必要があります（資本金／子会社株式）
現金がグループ会社の金庫に移動しただけ

いかがでしょうか。そんなに難しい考え方ではないですね

後は、内部取引のパターンを複数確認するだけです
（これが一番大変という噂がありますが・・・）

何だ
グループ合計では、そんなに良くないな



2. 連結財務諸表の作成手続き

まずはF/Sの合算でしたね

合算の対象はどんな会社でしょうか。

昔は持ち株基準（形式的な基準）でした。子会社の議決権の50%超をもっていれば株主総会で多数を取れる。という事は取締役を自分たちで決めれる。という事は経営を牛耳れる。という理屈でした。

この基準を悪用したのが山一証券です。

子会社の負債を隠すために意図的に連結外しをしたんですね。簡単にいうと、子会社の株式を売却して、50%以下にしてしまう訳です。

そこで、国は考えました。

支配力基準にしよう。50%未満でも取締役が過半数とか、貸付金で経営陣を押さえるとか、実質的に支配していれば連結の対象に入れる事にしたんですね。

①個別財務諸表の修正(科目の統一など)を行い合算する(Excelで集計と考えて下さい)

②合算F/Sができます

③ここで内部取引の相殺処理を行います

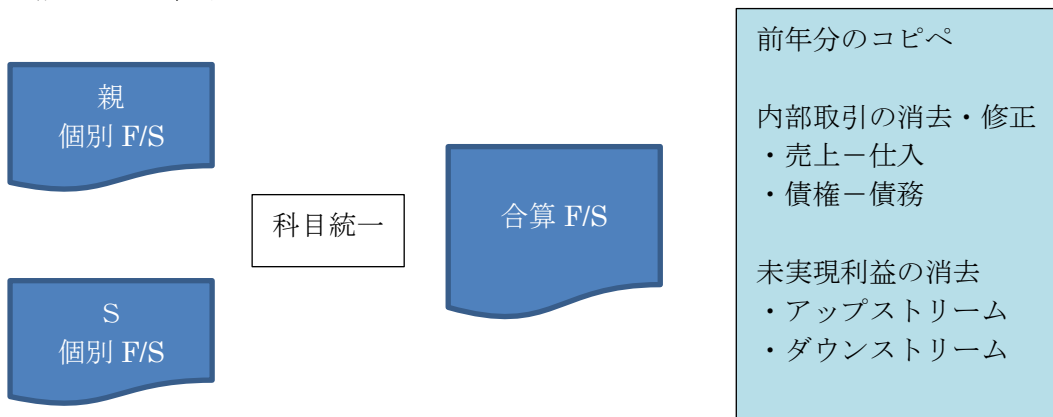
<ポイント>

毎年、個別財務諸表の合算からはじまります

連結の処理は、連結担当チームがExcelで行う（会計ソフトには入力しない）

という事は翌年度は、同じことをしないとイケない

連結チームの仕事



3. 支配獲得日の連結

受検上の基本パターンでいきましょう

サンプル問題9を例にしましょう

×0年3月31日に支配獲得

諸資産 750,000	諸負債 350,000
	純資産 (400,000)
	資本金 300,000
	資本剰余金 80,000
	利益剰余金 20,000

60% 40%

親会社の持分 ※親会社とは 「子会社を支配 している会社」 の事	非支配株 主の持分
--	--------------



$400,000 \times 60\% = 240,000$ 円の価値

300,000 円を支払った

合併や子会社化は、「利益を拡大するため」であったり「営業拠点を一気に編成するため」などの理由が多いですね。魅力のある会社の場合は、純資産額よりも高い金額で売買されます。購入側は60,000円プラスしても、それ以上の収益（超過収益力）を上げる事ができればいいわけですね。これを「のれん」といいます。収益をあげるための投資、要は設備投資と同じですね。したがって償却してゆく必要があります。

では支配獲得日の仕訳を確認してみましょう。

合算すると、S社株式と「資本（純資産）の60%」を相殺消去しなければなりません。

資本金 180,000	／ S社株式 300,000
資本剰余金 48,000	
利益剰余金 12,000	
のれん 60,000	

さらに、純資産の残りを非支配株主の持ち分という事を示さなければなりません。会計処理（仕訳の事です）は、振替作業になります。

（投資家にとって、非支配株主の存在は気になる場所ですね）

資本金 120,000	／ 非支配株主持分 160,000
資本剰余金 32,000	
利益剰余金 8,000	

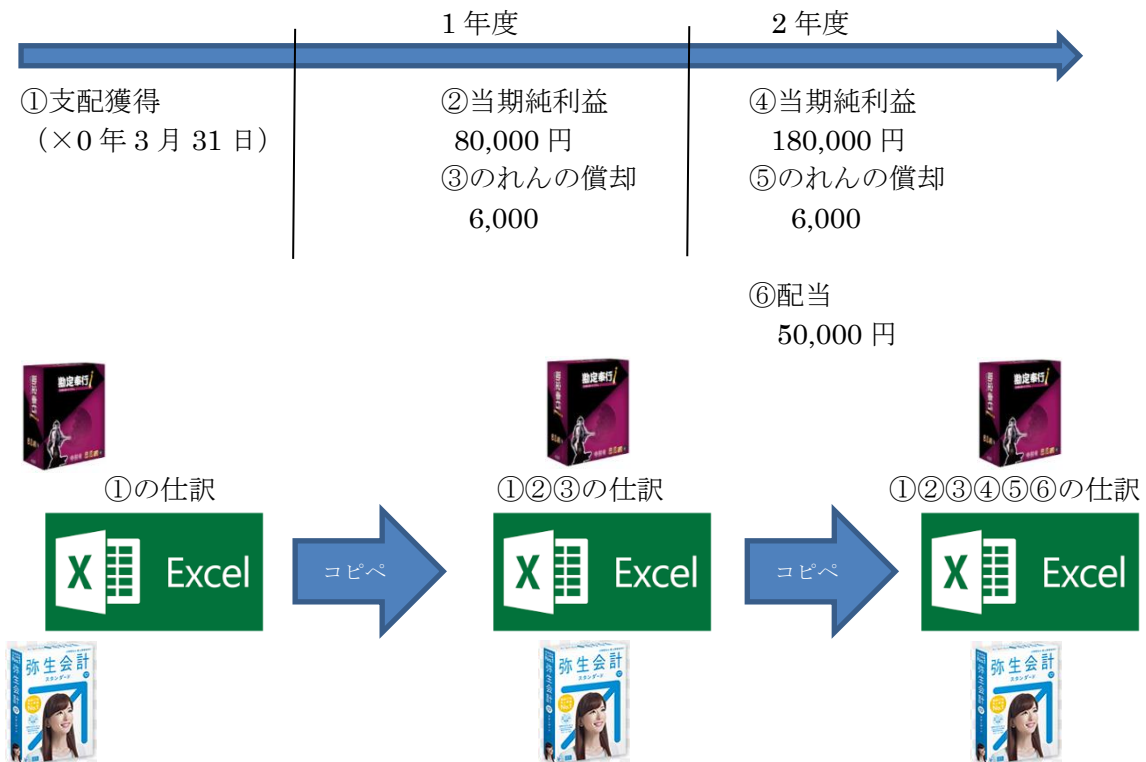
通常は上記の仕訳をまとめて処理します

資本金	300,000	／ S社株式	300,000
資本剰余金	80,000		
利益剰余金	20,000		
のれん	60,000	非支配株主持分	160,000

試験のテクニック

- ①子会社の純資産を全額借方へ
- ②親会社のS社株式を全額貸方へ
- ③全体の40%を非支配株主持分として貸方へ
- ④差額をのれん（または負ののれん発生益）

4. 支配獲得（期末とする）後の連結



< 支配獲得時の仕訳 >

①の仕訳は連結精算表上の仕訳（要は Excel 上・弥生会計には入っていない）

< 1 年度の会計処理 >

①の仕訳は 1 年度の P 社と S 社の個別 F/S には反映されていない
弥生会計や勘定奉行に入力していないのだから当たり前

2 年目（1 年度）の連結財務諸表作成時には、Excel でコピーしないとイケない
これを開始仕訳という

前期の仕訳をコピーするのだから、当期首の残高を変更しなければならない

資本金当期首残高	300,000	／ S 社株式	300,000
資本剰余金当期首残高	80,000		
利益剰余金当期首残高	20,000		
のれん	60,000	非支配株主持分当期首残高	160,000

②当期純利益は P 社と非支配株主で分けねばならない

非支配株主に帰属する当期純利益 32,000 / 非支配株主持分 32,000

③のれんは償却する のれん償却 6,000 / のれん 6,000

< 2年度の会計処理 >

①②③の仕訳は2年度のP社とS社の個別F/Sには反映されていない
 弥生会計や勘定奉行に入力していないのだから当たり前

3年目(2年度)の連結財務諸表作成時には、Excelでコピペしないといけない
 これを開始仕訳という

連結損益計算書といえども、P/Lは0スタート
 という事は、前期のPL項目は利益剰余金当期首残高に影響する

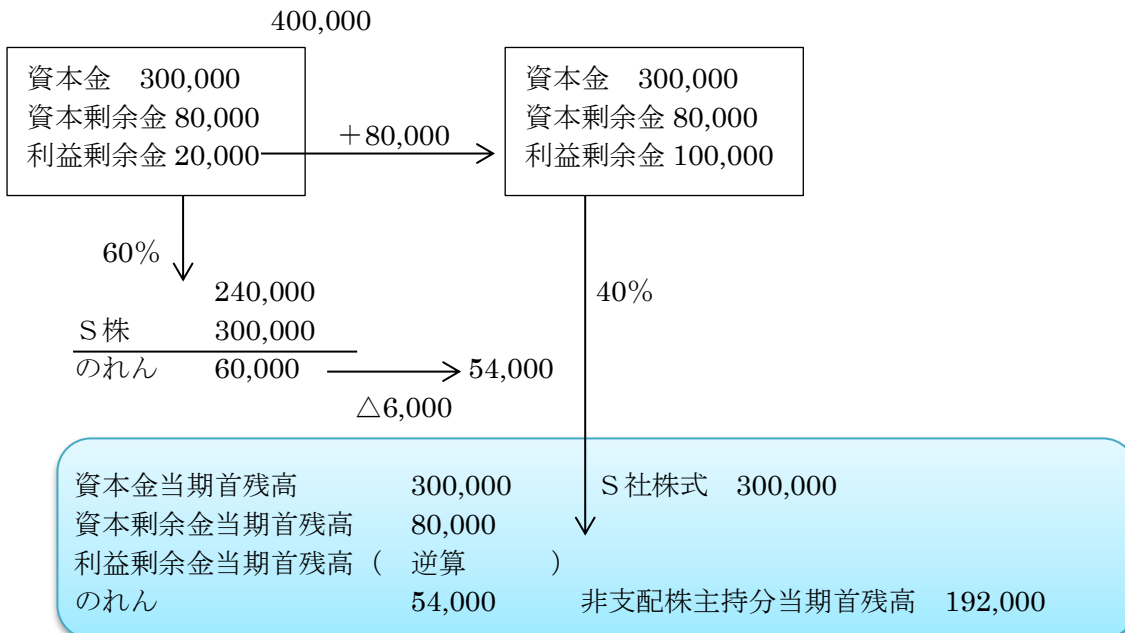
よって開始仕訳は以下のようになる

資本金当期首残高	300,000	/ S社株式	300,000
資本剰余金当期首残高	80,000		
利益剰余金当期首残高	20,000		
のれん	60,000	非支配株主持分当期首残高	160,000

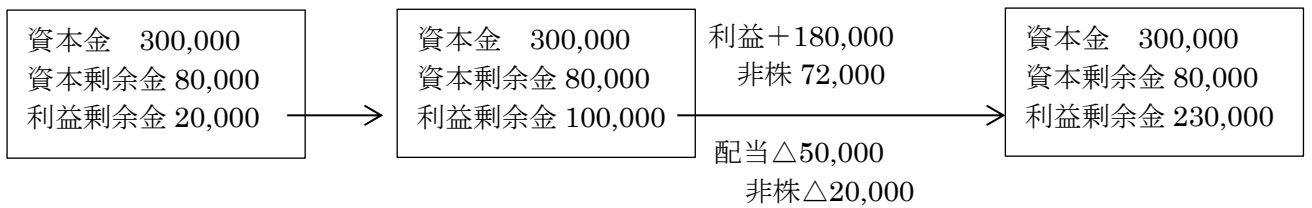
利益剰余金当期首残高 32,000 / 非支配株主持分当期首残高 32,000
 (非支配株主に帰属する当期純利益)

利益剰余金当期首残高 6,000 / のれん 6,000
 (のれん償却)

この開始仕訳をタイムテーブルで作る方法



利益剰余金 = 58,000

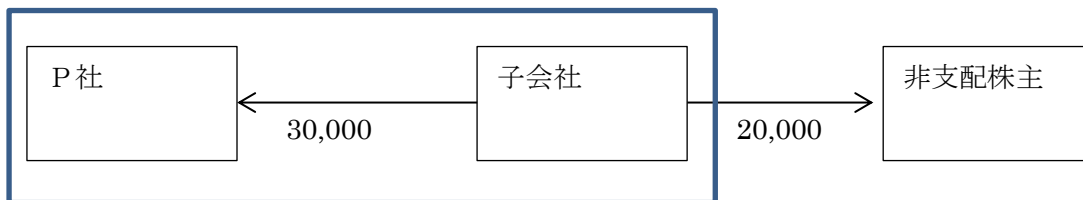


(2年度の当期の連結修正仕訳)

④ 非支配株主に帰属する当期純利益 72,000 / 非支配株主持分 72,000

⑤ のれん償却 6,000 / のれん 6,000

⑥ 配当の修正



グループ内部の処理→相殺消去

グループ外部との取引
 (非株への払い戻し→非株持分の減少)
 利益で持分増やす
 ならば、配当で持分減らそう

P社 (P/L)	S社 (SS)
受取配当金 30,000	剰余金の配当 50,000

受取配当金 30,000 / 剰余金の配当 30,000

非支配株主持分 20,000 / 剰余金の配当 20,000

試験のテクニック

POINT

非支配株主との直接取引は、非支配株主持分を増減させよう！

合わせて 受取配当金 30,000 / 剰余金の配当 50,000
 非支配株主持分 20,000

5. グループ会社間の取引の相殺消去など

ダウンストリーム			
P社		→ S社	
売掛金 100,000	売上高 660,000	商品 110,000	買掛金 100,000
貸倒引当金 △4,000			

P/L : 貸倒引当金繰入額 4,000

売上原価 : 660,000

①債権債務の相殺消去→貸倒引当金の修正

これは簡単です。企業グループを家族としましょう。
夫が妻から 10,000 円借りても、家庭全体の借金は変わりませんね。
という訳でサンプル問題の場合は

買掛金 100,000 / 売掛金 100,000

ただ夫婦の貸し借りで貸倒引当金は設定しません
(心の中では、「返ってこない」と思うケースもありますが・・・設定はしません・・・)

でも、親会社・子会社は法的には別の会社ですから設定する可能性はあります
売掛金が消えたら、貸倒引当金は消さないとおかしいですね
(親会社の売掛金の子会社だけと想像してみてください。引当金だけ残るのはおかしいです)
という訳でサンプル問題の場合は

貸倒引当金 4,000 / 貸倒引当金繰入額 4,000

②売上高と売上原価の相殺消去

これは単純に

売上高 660,000 / 売上原価 660,000

③未実現利益の消去

子会社に押し込み販売したもの（に含まれる利益）は、消さないとな



子会社に無理やり押し込んだ商品が売れ残った

ここには、10,000 円の利益が含まれている

ポイント

借方：P L科目 → 利益は減ります

貸方：P L科目 → 利益は増えます

内部利益を減らすには → 借方P L科目にすれば良い

売上原価 10,000 / 商品 10,000

8. 連結財務諸表の作成

① まずは財務諸表を合算する

<例>

売上高→ $2,400,000 + 1,800,000 = 4,200,000$
 売上原価→ $1,800,000 + 1,440,000 = 3,240,000$
 販管費→ $400,000 + 220,000 = 620,000$
 営業外収益→ $140,000 + 100,000 = 240,000$
 営業外費用→ $120,000 + 60,000 = 180,000$

諸資産→ $1,212,000 + 560,000 = 1,772,000$
 売掛金→ $300,000 + 200,000 = 500,000$
 貸倒引当金→ $12,000 + 8,000 = 20,000$
 商品→ $500,000 + 208,000 = 708,000$
 S社株式→ $300,000$

諸負債→ $400,000 + 180,000 = 580,000$
 買掛金→ $160,000 + 170,000 = 330,000$
 資本金→ $1,400,000 + 300,000 = 1,700,000$
 資本剰余金→ $100,000 + 80,000 = 180,000$
 利益剰余金→ $240,000 + 230,000 = 470,000$

② 連結修正仕訳の内容を加減する

<例>

売上高→ $4,200,000 - 660,000 = 3,540,000$
 売上原価→ $3,240,000 - 660,000 + 10,000 = 2,590,000$
 販管費→ $620,000 + 6,000$ (のれん償却) $- 4,000$ (貸引繰入) $= 616,000$
 営業外収益→ $240,000 - 30,000$ (受取配当金) $= 210,000$
 営業外費用→ $180,000$

諸資産→ $1,772,000$ 諸負債→ $580,000$
 売掛金→ $500,000 - 100,000 = 400,000$
 貸倒引当金→ $20,000 - 4,000 = (\Delta) 16,000$
 商品→ $708,000 - 10,000 = 698,000$
 S社株式→ $300,000 - 300,000 = 0$
 買掛金→ $330,000 - 100,000 = 230,000$
 資本金→ $1,700,000 - 300,000 = 1,400,000$
 資本剰余金→ $180,000 - 80,000 = 100,000$

利益剰余金は難しい S/S 意識しよう

	P	S	合計	修正
期首				開始仕訳
配当				配当
当期利益				連結 PL 項目
当期変動額				
期末				

利益剰余金→ $470,000 - 58,000$ (開始仕訳) $- 114,000$ (PL 項目) $+ 50,000$ (配当) $= 348,000$

<連結独自項目>

のれん→ $60,000 - 6,000 - 6,000 = 48,000$
 非支配株主持分→ $192,000$ (開始仕訳) $+ 72,000$ (振替) $- 20,000$ (配当) $\rightarrow 244,000$

連結貸借対照表

資産		負債・純資産	
諸資産	1,772,000	諸負債	580,000
売掛金	400,000	買掛金	230,000
貸倒引当金	△16,000	資本金	1,400,000
商品	698,000	資本剰余金	100,000
のれん	48,000	利益剰余金	348,000
		非支配株主持分	244,000
合計	2,902,000	合計	2,902,000

<手形取引の考え方>

【割引の場合】

P	→	S	→	銀行
買掛金／支払手形 1,000 1,000		受取手形／売掛金 1,000 1,000		
		預金 900／受取手形-1,000 売却損 100		

※売掛・買掛は決済が済んでいるので残は0

企業グループでみれば 銀行から 1,000 円借りて利息を 100 円払っただけ

合算すると 預金 900／支払手形 1,000
売却損 100

外部との取引なので 預金 900／(手形)借入金 1,000
支払利息 100

結果として修正仕訳は 支払手形 1,000／(手形)借入金 1,000
支払利息 100／売却損 100

科目は問題の指示に従ってください

貸借対照表の表示は（通常は）短期借入金となります

【裏書の場合】

P	→	S	→	仕入先
買掛金／支払手形 1,000 1,000		受取手形 ／売掛金 1,000 1,000		
		仕入 1,000／ 受取手形 1,000		

※売掛・買掛は決済が済んでいるので残は0

企業グループで見れば 仕入先に手形債務が 1,000 円ある状態

合算すると 仕入 1,000／支払手形 1,000

外部との取引なので 仕入 1,000／支払手形 1,000

結果として修正仕訳は 必要なし

CMC は無料サービスが充実！

SNS



勉強スケジュールをつけたり、日記に残したり、勉強仲間をつくらせたり！できる CMC の SNS が誕生！その名も「寺子屋 CMC」作成/命名：CMC 社長
<http://terakoya99.sns.fc2.com/>
 新規登録をクリックして進めてください

Youtube



無料で学べる 200 以上の動画！
 日商簿記 1 級 & 全経簿記 上級
 日商簿記 2 級 3 級
 全経簿記 1 級 2 級
 建設業経理士 1 級 2 級
 ビジネス会計検定 3 級
 などなど！是非チャンネル登録を
<https://www.youtube.com/user/casemethod2549>

ニコ生



CMC の独学者応援番組 ニコニコ生放送で質問しよう！自宅にしながら、簿記など各種検定の質問ができる「無料質問会」★毎週土曜レギュラー放送の質問会「〇〇簿記〇級〇回〇問の解き方がわかりません」などコメントしてください。
<http://com.nicovideo.jp/community/co2402757>



最新動画のアップやキャンペーンのお知らせなどをお届け！

フォローしてね★

https://twitter.com/cmc_info2

大好評発売中！！簿記過去問ゼミ

日商簿記 2 級

9,800 円



全経簿記 1 級

9,800 円



合格 12,800 円



合格 12,800 円

